

第125回役員会・第54回経営審議会 議事要録

日 時：2021年3月25日(木)9：30～11：20

会 場：Teams による Web 会議

出席者：津田理事長、松尾副理事長、白川理事、片山理事、柳井理事、龍理事、田上理事
井上委員、今川委員、岩松委員、久保委員、柏原委員、小林委員、松永委員
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議 案

- 1 令和3年度計画案について
- 2 令和2年度第2回補正予算案について
- 3 令和3年度予算案について

報 告

- 1 2021年度入学者選抜試験の結果について
- 2 教職員の採用について
- 3 2020年度卒業予定者の就職内定状況について
- 4 i-Design コミュニティカレッジ 2021年度履修生について
- 5 421 Lab. (子ども食堂応援プロジェクト) 受賞について

議案1 令和3年度計画案について

<質疑応答>

[委員]

○コロナ禍で先生と学生の細やかな取組みをしていると思ったが、就職支援の相談が例年の1.3倍に増えたという説明があったが、心の健康調査での相談者数は増えたのか。その辺りの説明をお願いしたい。

[事務局]

○心の健康調査(UPI)は60項目の質問があり、例年春の健康診断時に1年生だけに実施していた。今回はコロナもあるので、全学年に対象を増やして行ったため、対象が異なるため一概に比較はできないが、1年生のみに実施した際、支援が必要な学生が5%弱に対して、今回は15%程度となった。その学生には、保健師、公認心理士から電話等をしている。就職の相談件数も、例年7月頃がピークで減少するが、今年度は8月以降も相談が多く1.3倍の増となった。

[委員]

○2点ある。1点目は、コロナの影響でメンタルや経済的な問題を抱える学生がいると思うので、中途退学者が増えるのではないかとされている。全国平均では、昨年度より下がっている報告が文科省よりあったが、タイムラグがあるのではないと思う。本学は中退率がどのような状況か教えてほしい。安全・安心というと大学は、安全対策は行うが安心対策は遅れることがあるが、安心対策も色々しているので情報発信していくことが大事である。

2点目は、政府の方もAI戦略2019ということでデータサイエンス教育を理系文系含めて人材不足を解消しようということで進められている。学部を新設する、共通科目に入れていく、大学院で強化する大学等があるが、本学はどのようなデータサイエンス教育に取り組んでいく計画か教えてほしい。

[事務局]

○1点目の中退の状況ですが、最終的には年度末で締めるので正確な数字は次年度以降の報告になるが、前期の状況は国の動向と同様、少なくなっている。コロナ禍の影響で国にも大学生の支援をしていただき、1番のメインは経済的支援である。今年度から高等教育無償化の制度が始まった。それ以外にも緊急給付金というかたちで非課税世帯には20万、通常の家には10万給付するような制度があった。特にアルバイト収入が減って、通常的生活が厳しいという学生に夏以降3次にわたって国の方から予算がきている。概ね、高等教育無償化で2割くらいの学生が恩

恵を受け、緊急給付金で本学の学生4分の1が受給した。先ほどの休退学につながる話でいくと、経済的な理由によって学業が続けられないという学生は国の措置、大学独自の減免措置があるので、そこである程度のフォローができたと考えている。メンタルに対応する中退は今後出てくる可能性があるので、UPI テストを利用してそういった学生をピックアップして早期にフォローできるように努めていきたい。

[理事]

○データサイエンス教育については、結論から申し上げると検討中である。現在どのあたりのレベルかをお話すると、情報はかなり蓄積しているところだ。文科省からもいくつか情報発信があったので、きちんと目を通して。大学の対応としては、次年度の早期に検討委員会を立ち上げて、いくつかの選択を提示しながら決めていくという段どりを踏んでいる。今のところ、中心になる人物は選定していて、これから議論に入っていくという状況だ。そのいくつかのルートに関しては、科目を設定して全学に普及するのか、組織を改編してコース、学科、学部まで検討するのか、この辺りは当大学が持っている資源との兼ね合いがあるので、そういうところをよく考えながら最適な選択をしていきたい。

[理事]

○コロナを克服する、コロナ対策とはいわれてきたが、逆にコロナが起こったことによってやらなくていいような項目もかなり出てきたのではないかなと思うが、方向転換をしたとか廃止したとかいう項目があるのか教えてほしい。

[理事]

○やらなくていい最たるものは遠隔授業である。文科省から対面で授業をするよう指示がでてくる。4月からは対面授業を90%超える比率まで増やすということすすめている。感染防止策については、学生間のコミュニケーションは非常に大切なので、それを確保しながら距離、消毒、換気は引き続きやっていきたい。

[理事]

○会議がかなり減った。対面での会議も減ったし、Teams を活用した会議等をして、事務的にはそういう面が効率的になったと思う。

[委員]

○COVID-19で各大学が色々と授業方法等模索されたと思うが、遠隔授業、オンライン授業、Moodle を使った仕組みをノウハウも含めて作られたはずで、現在、教材も出来上がっていると思う。そういった意味で、大学が対面授業とオンライン授業の割合を戦略的にどう考えるかは大事である。将来的な話で言えば社会人の再教育等を考えるとオンラインのノウハウは大変有力な武器である。

また、FD や SD の研修の話も計画にあったが、教員の方の研修は非常に大切なファクターになると思うが、KPI が70%以上というのはいかなるものか。これまでの実績がどれくらいで、なぜ70%なのか教えてほしい。本当は90%以上くらいが目標じゃないかなと思うのですが。

[理事]

○研修の中でも、必修研修と教員が選択して受けるテーマ別の研修があり、そういったことを勘案すると70%くらいの数字の設定になっている。必修研修については、当日参加できない教員には動画でオンデマンド配信し、研修受講を確認している。結果的には、必修研修についてはほぼ全員受けている。

[副理事長]

○大学院等の社会人に対しては、遠隔授業は有効だと思っている。9割対面授業という数字は学部の状況であって、ビジネススクールや社会システム研究科では積極的に遠隔を進めていこうと思っている。また、ひびきのキャンパスで行っている社会人向けの enPiT-everi は、元々オンラインで行っている。コロナ禍で培ったこういった資源を有効に活用し、効果的な授業展開を考えている。

[委員]

○インターンシップの開拓について、北九州の地域特性、地域貢献、学生の就職の選択の幅をひろげる等、コロナ禍で状況も変わり、特に文系の学生に対して、どういった方針でインターンシップ先を開拓しているのか教えてほしい。

[事務局]

○従来は、4～6月に挨拶も兼ねて企業まわりをしているが、コロナでできなかったところもあるので、来年度行っていきたい。基本方針としては、第一に地元企業、次に本学OB・OGがいる企業ということで受け入れをお願いしている。

[委員]

○承知した。学生のために、今後発展していく分野とか、地域として北九大の学生をこういう分野で就職させたいとか、そういう方向性はどうか。

[事務局]

○昨年来からIT系を増やしていて、北九州という地域にとっても大切な介護・福祉・医療分野の企業にも受入依頼している。また、本学の学生も多くはないが就職しているので、その関係性を保ちながら、こういった分野にも力を入れていきたいと思っている。

[委員]

○北九大は地域連携に対して、積極的に学部にとらわれずに行っていると思うが、特に地域創生の学生は今年度コロナ禍で活動が大変だったのではないかと推察するが、地域活動を次年度以降継続も含めてどういった方向性で行う方針なのか伺いたい。

[副学長]

○4月に緊急事態宣言が出てからは学生の活動も中止していたが、夏頃から学長の許可制で活動を再開している。ただ、遠くに行く、宿泊を伴う活動は、少し制限をしていたが、最近では、部分的に宿泊を伴う活動も認めている。量的には減っているかもしれないが、質的には学生の活動もしっかり地域と連携して出来ているのではないと思う。

後に、学生から活動報告をさせていただくが、今年度も積極的に活動出来ていると思う。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 令和2年度第2回補正予算案について

<質疑応答> なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案3 令和3年度予算案について

<質疑応答> なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 2021年度入学者選抜試験の結果について

<質疑応答> なし

[委員]

○どの大学も志願者が減っていて、私立大学の場合は1名志願者が減ると、複数学部受験しているので、のべ数がかなり減り、平均で12%ほど減っている状況のようだ。特にコロナの影響で一般入試まで人が残ってなくて、みんな指定校推薦などで早く決めたい、安心したいという動きで後期が減っているのだと思う。

課題は来年で、例年はオープンキャンパスに高校2年生までに7割くらい行って、3年生になったら受験勉強する動きが、今年は高2までに13%しか行けてないという調査結果が出ている。そうになると、知っている大学、近い大学、受かりそうな大学に行くので、正直、不本意入学が

増える可能性がある。早期から北九州市立大学を認識していただく、あるいはコロナ禍でしっかりと対策や教育をしていることを伝えていくことが大事だと思う。

報告2 教職員の採用について

<質疑応答> なし

報告3 2020年度卒業予定者の就職内定状況について

<質疑応答> なし

報告4 i-Design コミュニティカレッジ 2021年度履修生について

<質疑応答> なし

報告5 421Lab. (子ども食堂応援プロジェクト) 受賞について

<質疑応答>

[副理事長]

○コロナ禍での活動で、苦勞した点はどんな点か。

[学生]

○子ども食堂において、子どもたちと直接会って触れ合うことができないというのが大変苦勞した。会えない中で、お手紙企画等新たな試みを行い、困難を乗り越えて活動してきた。

[副理事長]

○コロナでできない、できないと多くの人が言う中で、それをきっかけにできることを探し工夫したことが素晴らしい。貴重な経験をし、非常に良い活動だったのではないかと思う。